

一般会計歳入歳出決算額の詳細

	平成30年度決算額	平成29年度決算額	増減率 (%)	解説
(1) 歳入総額	1,378億8,586万円	1,430億5,347万円	△ 3.6	前年度に比べ法人市民税や固定資産税は減額となったものの、個人市民税や事業所税が増額となるなど、市税全体では約4.1億円の増額となりました。 そのほか、地方交付税が約11.0億円、市債が約31.1億円などの減額が影響し、歳入総額は約51.7億円の減額となりました。
(2) 歳出総額	1,346億8,385万円	1,401億7,688万円	△ 3.9	民間保育所施設整備補助事業や認定こども園施設給付事業などにより、民生費が約22.1億円の増額となりました。一方で、小中学校の校舎新增改築事業が平成29年度に完了したことなどにより、教育費が約41.7億円の減額、預託金の減少などにより、商工費が約14.5億円の減額となり、歳出総額は約54.9億円の減額となりました。
(3) 歳入歳出差引額	32億 201万円	28億7,659万円	11.3	「(1)歳入」から「(2)歳出」を差し引いた、形式収支と呼ばれるものです。
(4) 実質収支	25億2,892万円	24億8,896万円	1.6	実質収支は、「(3)歳入歳出差引額」から翌年度へ繰り越すべき財源を差し引いたもので、このうち13億円を財政調整基金（貯金）に積み立て、残りの12億2,892万円を翌年度（令和元年度）への繰越金としました。
(5) 単年度収支	3,996万円	9億1,042万円	△ 95.6	単年度収支は、当該年度の実質収支額から前年度の実質収支額を差し引いた、当該年度だけの収支の状況を見るものです。
(6) 実質単年度収支	△20億6,021万円	△10億8,790万円	△ 89.4	実質単年度収支は、「(5)単年度収支」に財政調整基金への積立金（決算余剰積立以外）と市債元金の繰上償還金を加算し、財政調整基金の取崩額を減じたもので、単年度収支に含まれている黒字要素及び赤字要素を調整した収支の額です。